

北山系で最大の谷を流れる西林木町の伊努谷川は江戸中期ごろまでは南流していましたが、安永三年(一七七四)ごろ、新川立替といわれる改良工事によって今の流路になりました。

しかし、その新川部分の周辺は低地のため豪雨の際には度々浸水して、数回にわたって土手の改築工事が行われました。

「大沢」という地名は、伊努谷川の上流から下流に向かって南流していた頃の「古土手」という地名のある所から日下境までの伊努谷川沿いを「大沢」と呼びます。

近くには「小沢」という小地名もあり、これらの低湿地を「沢」と名づけたものと思われます。

一般に「沢」とは、草などが生えている湿地帯をいいますが、山間の谷川を呼ぶ事が多いといえます。

古老の話では、往古の時代、この「大沢」の地で伊努谷川と東林木から流れていた湯屋谷川と合流し大きな流れとなって大社方面へ流れていたと興味のある話を聞かせてくれました。

